

第31回

海に飛び出た岬から ぐるりと風景を 見回してみる

3月下旬、用事があり浦河へ。高速の日高道を厚賀で降り、国道235号に行く。朝早く出たので、朝焼けの雲やキラキラした太平洋を眺めながらのドライブになった。この道を行くと、海も山もあり、畑や馬の牧場が広がり、小さな漁港が点在し、風光明媚な場所がたくさんあって、とても大好きなコースだ。

えりも町にも知り合いや仲間がいて何度も来ているが、数年前4月下旬に来たときは、いろいろなお店が「春ウニ」ののぼりやポスターを掲げていて、その誘惑に耐えかねて、急ぐ道中、寄り道して春ウニ丼を食べたことがある。あのお店はどこだったのか思い出せないけど、とても美味しく大満足だったことは覚えている。今回も、もう1ヶ月遅い時期だったらなあと思いつつ、はたと昨年赤潮が発生し、ウニやツブ、鮭など漁業に大きな被害が出たことを思い出した。

だいぶん前のコラムにも描いたことがあるかもしれないが、13年前に「えりも砂漠が昆布の森に」という絵本を描いた（文章は川嶋康雄氏）。えりもの木を暖房などで伐採し続け、地域が砂漠化し、海が汚染され、昆布も魚もいなくなってしまったえりも。木を植林することで、砂漠化を防ぎ、海が蘇ったという実際の歴史を絵本にしたものだ。今回の赤潮の被害でえりもだけではなく、太平洋岸一体の海が戻るまでに何年もかかると聞いている。砂漠化と赤潮は原因は全く違うけれど、幾度かの困難を乗り越えてきている地域だ。きっと地元の人たちは大変な思いをしているに違いないが、取り戻してほしいと心から願っている。

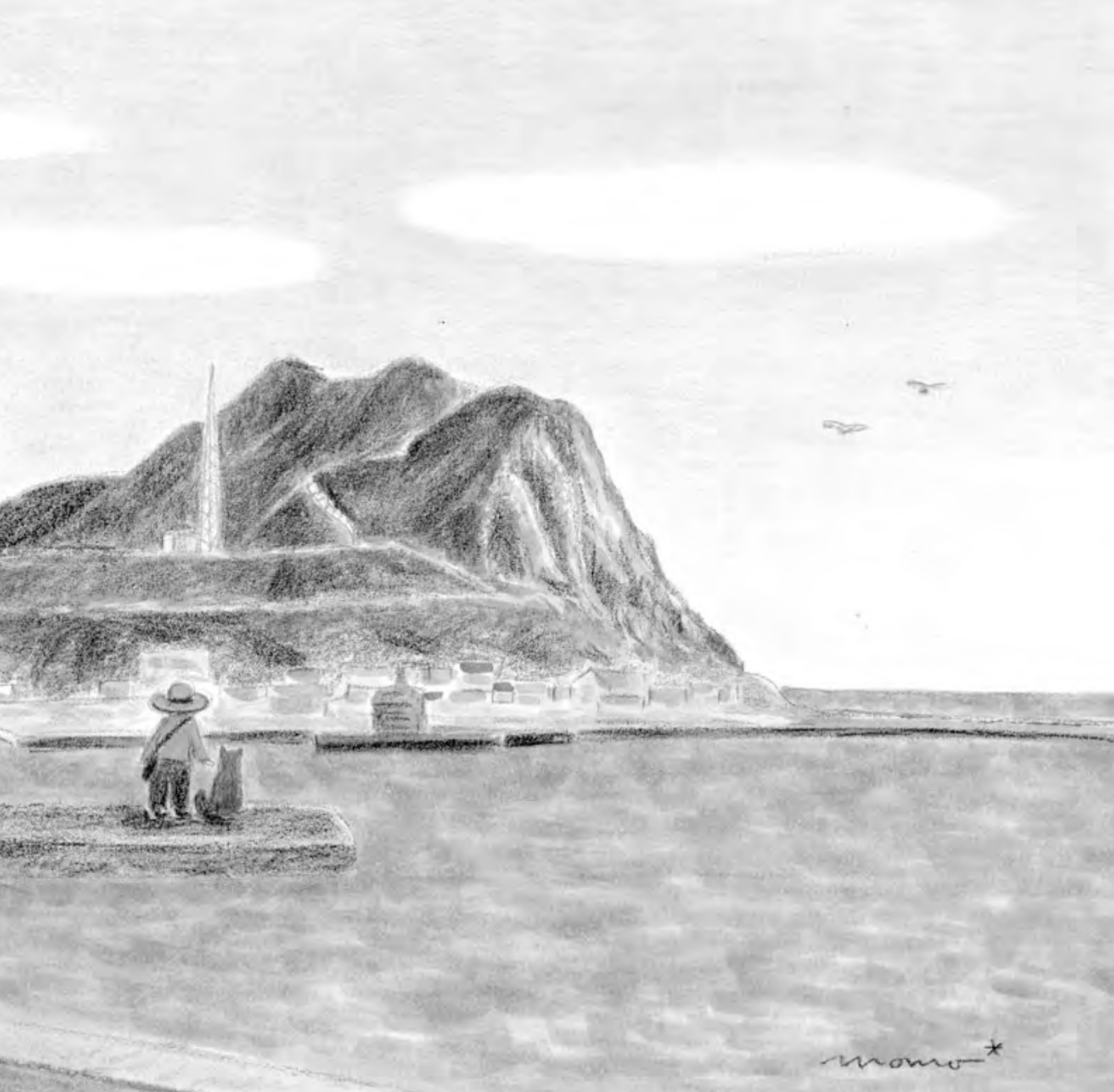
何よりもこの道路沿いには、他にも訪れるべきところがある。応援も兼ねていろんな楽しみを見つけに、たくさんの人に来てほしい。それが地元の人々の励みになり、豊かな海が戻ってくることにつながるはずだ。次に行く時には、エンルム岬に登り、アポイ岳を背に「早く春ウニ丼が食べたーい」と海に祈ってこよう。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつはたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？ くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。



momo*

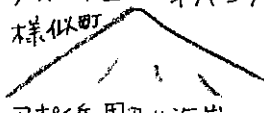

 浦河町の
夏いちご
全国にも
知られる
夏いちごの産地
ですよ！
7月
には
いちごまつり
も！！



 日高は馬の産地
あちこちで馬と
ふれあえます！



 三石、昆布
ようかん
有名な三石昆布
もねりこみた
ようかん
です！！


 親子岩

アホイ岳 ジオパーク
様似町


 アホイ岳周辺や海岸など
ジオパークエリアに存在
します。アホイ岳には固有種
の植物がいっぱい！海岸には
面白い型の岩など
が点在しています！


 見どころいっぱい
楽しんでね


 白い花の
ヒダケソウ